

たまねぎ・べと病の発生に引き続き注意し ましょう！

(平成28年5月11日)

たまねぎでは、べと病の発生が引き続き見られます。本年は早期からべと病の発生が多く、病害虫発生予察注意報第1号(平成28年4月6日付け農推第1077号)を公表し、発生状況と防除対策等について、お知らせしてきましたが、防除が遅れたり、不十分なほ場では被害が目立っています(5月9日調査)。

大阪管区気象台の大阪府農業気象速報(5月6日発表)では、向こう1ヶ月の平均気温は平年より高い確率が60%、降水量は平年より多い確率が40%と予報されています。この時期の高い気温は発生を抑える要因となりますが、本年は既に被害株が多いことから、感染が拡がりやすい条件にあります。

今後、気温がやや低く、降水量が多い日が続く場合は、べと病の発生や被害が更に増える可能性がありますので、引き続き注意が必要です。

表1 たまねぎべと病の発生状況 5月9日調査 ()内は、調査ほ場数

| 調査地点 | 発病ほ場率(%) | 発病株率(%)*1 | 被害株率(%)*2 |
|------------------|------------|-----------|-----------|
| 泉佐野市(上之郷) | 86.7(15ほ場) | 8.0 | 40.0 |
| 貝塚市(木積) | 80.0(5ほ場) | 5.0 | 25.0 |
| 岸和田市(阿間ヶ滝) | 100.0(4ほ場) | 3.0 | 95.0 |
| 平均 | 87.5(24ほ場) | 6.5 | 46.0 |
| (参考)平年値(過去10年平均) | — | 2.9 | — |

*1 現在、べと病の感染・被害が拡大中の株。

*2 発生被害が認められたが、薬剤散布等により現在、病気の進展が停止又は治癒している株。

1 ベと病の生態と被害等

- (1) 主に葉に発生する。たまねぎの他、ねぎ、わけぎなどに発生する。
- (2) 越年罹病株で形成された孢子から感染し、春期に発生する2次感染株は、気温が15℃位で、降水量が多いと増加する。特に、4月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと、発生が多くなる。
- (3) 2次感染株の病斑は、黄色で大型の長卵形から楕円形をした病斑を生じることが多く、病斑上に、白または暗紫色のかびが生えることが多い。他にも種々の形態が見られ、適温(15℃前後)の降雨時には、葉色には変化がなく、突然かびを生じることがある。

2 防除対策

- (1) ほ場の状況をよく観察し、適期に防除する。
 - ・発生を認めたら、下記の薬剤を散布する。
 - ・現在、発生のないほ場でも、予防的に下記の薬剤を散布する。
 - ・薬剤により使用時期が違うので、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- (2) 同一薬剤の連用を避ける。特に、QoI殺菌剤、CAA殺菌剤、フェニルアミド系(薬剤名は表2参照)は耐性菌が発生しやすいため連用は避ける。これらの剤を使用したにもかかわらず発生が多いほ場では、耐性菌の発生が疑われるので、他系統の薬剤を使用する。
- (3) 薬剤を散布する時は、周囲に飛散しないよう注意する。
- (4) 以下の薬剤を参考とする。

表2 散布薬剤・たまねぎ(例)

| 系 統 | 薬 剤 名 | 希 釈 倍 数 | 使用時期 ／使用回 数 | 備 考 |
|-------------------------|------------------------|--------------|-------------------|-------|
| シチオカーハメート系 | ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 | 400～600 倍 | 3日／5回 | 予防 |
| フェニルアミド系＋ シチオカーハメート系 | リドミルゴールドMZ | 1,000倍 | 7日／3回 | 予防・治療 |
| QoI殺菌剤 | アミスター20フロアブル | 2,000倍 | 前日／4 回 | 予防 |

| | | | | |
|----------|---------------|---------|---------|-------|
| QoI殺菌剤+他 | ホライズンドライフロアブル | 2,500 倍 | 3 日／3 回 | 予防・治療 |
| Qii殺菌剤 | ランマンフロアブル | 2,000 倍 | 7 日／4 回 | 予防 |
| CAA殺菌剤 | レーバスフロアブル | 2,000 倍 | 前日／2 回 | 予防・治療 |
| CAA殺菌剤+他 | ベトファイター顆粒水和剤 | 2,000 倍 | 7 日／3 回 | 予防・治療 |
| | プロポーズ顆粒水和剤 | 1,000 倍 | 7 日／3 回 | |

※ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤及びリドミルゴールド MZ は、同一成分(マンゼブ)を含み、合わせて5回まで

※ホライズンドライフロアブル及びベトファイター顆粒水和剤は同一成分(シモキサニル)を含むので合わせて3回まで

その他の剤も同一成分を含む場合があるので、成分毎の総使用回数に注意する。



写真1 ベと病の被害葉
(黄色で楕円形をした一般的な病斑)



写真2 ベと病の被害葉
(発生初期の霜状のかび)



写真3 ベと病の被害葉
(急速に生じ進行した病斑)

(注意)上記の1, 2は、病虫害発生予察注意報第1号(平成28年4月6日付け農推第1077号)と同じ内容です。

◎防除薬剤については、

●Web版大阪府病虫害防除指針

(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)